

日本医師会女性医師支援センター事業 九州ブロック会議



常任理事 宮里 善次



去る10月31日（土）、宮崎観光ホテルにおいて開催された標記会議について、以下のとおり報告する。

挨拶

宮崎県医師会長 河野雅行

当ブロック会議は昨年度から九州各県持ち回りでの開催となっており、今回初めて宮崎県での開催となる。女性医師事業に先進的に取り組む皆様方と親しく情報交換ができることを大変嬉しく思う。

女性医師が安心して妊娠・出産・子育てを行なう期間、これは長い人生で考えると僅かな時間である。この時期を社会全体で重点的に支援し、女性医師が男性医師と何ら変わることなく、キャリアを積み医師として輝くことのできる社会基盤を整える施策が必要である。女性医師の生の声を施策に反映していくためにも、2020.30を目標に指導的立場での力を発揮していただくことも重要となる。

宮崎県医師会でも現在役員22名のうち2名が女性医師で、女性医師に関する様々な事業を牽引して貰っている。

今後はこのような優秀な女性医師を医師会役員等へ積極的に投与すると共に、女性医師の活躍推進を重点項目の一つに位置付け、さらに尽力して参る所存である。こうした女性医師の活躍こそが、5年後、10年後の日本の医療を支え、国民の健康と幸せを守る好循環に繋がるものと考えている。最後に本日のブロック会議が実り多きものとなるよう祈念し挨拶とする。

日本医師会常任理事 笠井英夫

本事業は皆様方、地域の先生方に支えられている事業であり、今後も継続していくものと考えている。大所高所からご指導をお願いしたい。本協議会が実りある結果をもたらすことを祈念する。

**日本医師会女性医師支援センター副センター長
日本医師会女性医師支援委員会委員長
女性医師バンク統括コーディネーター
保坂シゲリ**

皆様のおかげで日本医師会女性医師支援センター事業もかなり活発に大きくなっている。これも全国の皆様方のおかげであり、皆様方の強い理解と強い支援によるものだ大変感謝している。各地域での様々な活動を伺い、全国に広げていくことが私たちの役目だと考えているので、いろいろ教えていただきたい。

報告・協議

(1) 日本医師会女性医師支援センター事業について

①日本医師会女性医師バンク運用状況

平成 27 年 9 月 30 日現在での就業実績件数は、441 件 (内訳: 就業成立 423 件、再研修紹介 18 件) である。

② 2020.30 実現をめざす地区懇談会

「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも 30% 程度」という目標に向けて、指導的立場、意思決定機関への女性の積極的参画を目的に、女性医師会員に日医の組織・運営・活動内容に理解を深めていただき、将来日医の活動への参加を働きかけるものである。今年度は 36 箇所で開催された。

③平成 27 年度「医学生、研修医等をサポートするための会」

女性医師支援、特に女性医師のキャリア形成・継続の支援を目的に、医学生や研修医等、若い世代の女性医師を対象に、都道府県医師会、学会、医会との共催により開催している。今年度は 53 箇所で開催された。

④平成 27 年度「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会」

医師全体の勤務環境の改善には、女性医師が働きやすい勤務環境の整備が必須であり、女性医師がキャリアを中断せずに働いていける体制を構築することが重要である。そのため、女性医師の勤務環境の整備についての理解を深める

ことを目的としている。今年度は 16 箇所で開催された。

⑤平成 27 年度大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会

全国の大学医学部や各医学会の女性医師支援や男女共同参画の担当者を対象に、日本医師会の取り組みの周知と各大学、各学会の取り組みについての情報交換を目的に開催している。今年度は 12 月 18 日 (金) に開催予定である。

(2) 各県における女性医師支援の活動報告等について

【沖縄県】

沖縄県女性医師部会では 2007 年に発足以降、「女性医師フォーラム」、「病院長等との懇談会」、「プチフォーラム」を開催している。また、琉球大学医学部 3 年生を対象に「キャリアプラン講義」を開催している。

「女性医師フォーラム」では、「先輩医師に聞く！素敵なワークライフバランスのとり方」をテーマに開催した。県内 15 臨床研修病院の研修医等に各施設における職場環境を述べてもらい意見交換を行った。結果として、男性医師支援も含め、各専門科に任せるのではなく「病院全体」で取り組むことが必要であることを再認識した。

今年度の「病院長等との懇談会」は、これまでの懇談形式を変更し、JCHO 大阪病院名誉院長の清野佳紀先生に「女性医師支援が病院を活性化する」をテーマにご講演いただいた。

「キャリアプラン講義」は、琉球大学医学部と女性医師部会の合同企画として、医学生の時期からキャリア教育や職業意識の啓発に努めることを目的に、グループワーク形式で開催した。

今後も、「女性医師フォーラム」、「病院長等との懇談会」等を継続し、それぞれの会での意見を医師会報等でフィードバックする。この過程を各病院で共有し、今後の目標とする。

【大分県】

平成 27 年 2 月に、行政、医師会、大学の連携と大分県の男女共同参画の現状把握を目的に研修会を開催した。本研修会では、各団体の現

状を発表いただき、平成 18 年に女性医師の会を発足して以降、何を把握し、今後、何に取り組むべきかを検討した。問題点として、産前産後の休暇体制、乳児期・学童期の病児保育を含めた支援体制、職場復帰への支援体制、勤務体制の柔軟化が挙げられた。また、新研修医制度、専門医制度について「2025 年問題」として、行政、医師会、基幹病院、大学の連携した話し合いの場が必要であるとの意見があった。

また、平成 27 年 7 月に女性医師職場環境改善委員会を発足した。女性医師がよりよい環境で働く環境を整備することにより、若い医師を多く大分県に残ってもらうことを目的としている。

大分県では、短時間正規雇用支援事業、院内保育所運営費・施設設備補助、医療勤務環境改善支援センター運営事業、女性医師医療人キャリア支援事業への支援等の事業を展開している。このうち、女性医師医療人キャリア支援事業では、問題把握のための聞き取り調査や相談窓口開設、復帰研修プログラム及びキャリアアッププログラムの策定に取り組んでいる。

【長崎県】

長崎県の補助を受け、女性が働きやすく生きがいのある環境整備を目指して、院内保育所を充実させている。長崎県医師会では、保育サポートシステムの利用医師の登録、保育サポーターの育成等、保育サポートシステムを構築し充実させている。また、長崎県内向けの保育サポートマップの作成を予定している。

長崎大学病院のメディカルワークライフバランスセンターが充実しており、各関係団体が協力しあい、専門医を取るための準備、論文を書くための講座等に取り組んでいる。県内の働いていない女性医師をほぼ把握しているため、「あじさい便り」を配布し情報提供を行っている。

病院管理者の意識改革を目的にセミナーを開催した。当セミナーでは、長崎県内の 4 臨床研修病院長にシンポジストになっていただき、自病院でどのような努力をしているかを発表いただいた。

長崎県の特徴として、県、大学、医師会との協力体制が構築されつつある。様々な問題点はあるが、話がすぐにできるという関係が今の活動を進められている状況である。

【熊本県】

これまで、熊本県では熊本県医師会、熊本市医師会がそれぞれ独自に活動を展開していたが、ひとつに纏まってサポートしていこうという意見があり、平成 26 年度から、熊本県地域医療支援機構、熊本県医師会男女共同参画委員会、熊本市医師会女性医師キャリア支援センター、熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員会がまとまり、「熊本県医療人キャリアサポート CLOVER」を組織した。

主な活動として、熊本医師キャリアサポートブック「CLOVER」の作成、熊本大学医学部医学科 1 年生・4 年生への講義、男女共同参画コーディネーターの会等、種々の事業を展開している。

また、熊本県内の 100 床以上を有する病院で働く医師を対象に、短時間正規雇用制度等の支援体制や、復職・離職抑制のために必要な支援、男性の育児・介護休暇等についてのアンケート調査を行った。

【福岡県】

福岡県では行政から補助を受け、県内病院における女性医師の勤務環境支援ツールとして「福岡県女性医師サポートブック～パザパ～」を昨年度発行したが、今年度新たに 38 病院を加え、計 119 病院の支援環境を掲載した第 2 版を発行した。また平成 25 年から実施している保育士による相談窓口事業は利用者が少なく広報活動に力を入れている。

また今期は本格的な女性医師支援 10 周年を迎えたことから県医報（5 月号、6 月号）で異例の特集を組んでもらった。記事では女性医師支援の現状と課題について、日医男女共同参画委員や厚労省、福岡県、福岡市、大学、都市部・郡部の病院、郡市医師会等からご意見を頂戴した。

郡市医師会の草の根的な女性医師活動の切っ掛けになり得る「2020.30 実現のための地区懇談会」を県内6カ所で予定（既に3カ所で開催済）している。この他、産業医科大学での講義（ワークライフバランス）、病院長・管理者等への講習会、医学生、研修医をサポートするための会（4大学）を開催した。また昨年度誕生した北九州女性医師の会では、病院管理者の先生方と4つのテーマ（勤務形態／保育／産休・育休後の復職時の課題／更衣室や休憩室など施設環境）についてディベート討論を行った。

【鹿児島県】

鹿児島県では鹿児島大学医学部を卒業する女子医学生に対し、「日医女性医師支援センター」を紹介する文書やPRグッズを配布する等、啓発活動に努めた。毎年継続中の「院内保育園、病児・病後児保育施設訪問」事業では、保育施設訪問後、県医師会報に記事を掲載しており、開園時間の問題や病児保育問題を考えるきっかけとなっている。また「医学生・研修医等をサポートするための会」は4回企画（ERの世界／産婦人科医師を育てる／新専門医制度におけるキャリアアップ／小児科問題）しており、何れも鹿児島大学で開催する。2020.30 実現をめざす地区懇談会は、保坂シゲリ先生をゲストに鹿児島市立病院で開催した。院内での開催であるため評判も良く、今後もこの様な企画で継続開催したい。

この他、南風病院女性いきいきプロジェクト（勤務医師等の勤務環境改善への取り組み）について紹介があった。

【佐賀県】

佐賀県では平成19年度より日医と共催行事を計8回開催しており、延べ317名（託児利用15名）の参加があった。このうち、平成26年度に実施した「医学生・研修医等をサポートする会」において、佐賀大学医学部医学科4年生を対象に学生が取り纏めたアンケート（回答者93名／男性：45名、女性：48名）結果について、学生の考えを知る機会になると思うので紹介したい。▽将来ライフイベントによるキャリアの中断、一時的に仕事の負荷を減らすと

考えるのは女性が多い。▽自らの臨床研修先や専門分野選択にライフイベントの要素が影響するかについても、女性の方が大きく影響すると学生のうちから考えている。▽医師免許を持つ女性が育児のために離職することについては、医師である前に一個人であり如何なる人生も本人の自由だと考える学生が男女共に多い。▽育児については、男女ともに幼児期は女性の役割だと考えているが、保育園・幼稚園の送迎や学童期の学習指導は男女平等だと考えている傾向にあることが分かった。育児世代の過重労働が現状問題点として指摘されており、今後医療界全体で労働環境の改善を整備していくことが必要だと考えている。

【宮崎県】

宮崎県では今年度の主な取り組みとして、①ワークライフバランスセミナーの開催、②学生向けセミナーの開催、③宮崎県医師会版ファミリーサポートシステム作り、④県北女性医師の会へ参加－を挙げたい。

とくに、②については、学生と現役ドクターとの対話型グループディスカッションを企画し、互いに有意義な気づきの場が生まれた。③については、女性医師のニーズに応えられるよう医師会版子育てサポートシステムの構築をめざし、NPO 法人と連携の下、手引書の作成やサポーター養成講座（講義、保育実習）に役員を派遣し情報収集及び状況把握に努めた。これ等を踏まえ、本年11月上旬、医師会版保育サポーター養成講座を開催する。④については、能動的に「顔の見える」関係づくりを構築すべく、出張訪問を行い幅広い年齢層と多科にわたる先生方との情報交換が出来、地域との連携を強めることが出来た。

(3) 情報交換（質疑応答、日本医師会への要望、提言等）

【宗像市医師会】

私は、子育て中に自分の研究が十分にできないというジレンマがあった。それをわずかでも手助けできたらと検討しているが、個人情報等の問題により、宗像市に在籍している研修医、

若手医師がどの程度いるかを把握できていない。他医師会がどのように把握しているかご教示いただきたい。

【佐賀大学】

私は疫学の研究をしている。論文を書くという点で言えることは、出産・子育ての時期に、臨床も学位もとるということは難しい。大学院であれば、時間をある程度自由にコントロールできるので、大学院に入局いただくこともひとつの案である。実際、私たちの医局に、3年目の小児科の女性医師が在籍し、1つ論文を完成させ、2つ目に取り組んでいる。大学を上手に利用していただきたい。

【長崎県医師会】

長崎大学では、卒業生を中心に現況確認をしている。何年も継続しているため、卒業生に関してはほぼ把握できている。問題なのは、離婚等で県外からもどってきた方は把握できていない。小中高の同級生等から情報提供があれば、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターから連絡をとる形で対応している。

【日本医師会】

初期研修医の会費を無料化している。入会していただけたら把握できる。3年目以降も残っていただけるように努める。

(4) 日本医師会女性医師支援事業連絡協議会 (平成 28 年 2 月)における九州ブロック 会議の報告者について

平成 28 年 2 月日本医師会館において開催されるみだし連絡協議会における九州ブロック代表について協議を行った。

協議の結果、当番県である宮崎県医師会を代表に選出した。

(5) 次期開催県について

平成 28 年度日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック会議の開催県について協議を行った。

協議の結果、九州医師会連合会の当番順に倣い、次回は沖縄県医師会の担当で開催することが決定した。

印象記

沖縄県女性医師部会副会長 仁井田 りち



平成 27 年 10 月 31 日宮崎県にて日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック会議が開催されました。

例年、福岡県と鹿児島県で行われていましたが、昨年より九州ブロック会議は各県持ち回りで開催されることになり、宮崎県の次の平成 28 年は沖縄県で開催されることになりました。

懇親会では、沖縄県医師会常任理事の宮里善次先生が、次期開催県を代表して乾杯の挨拶をされ、戦後たくましく生き抜いた女性の歴史も盛り込んだ心引き込まれる名挨拶であったため大拍手で会議参加の皆様を受け入れられました。日頃顔見知りの先生方に、「12 月の暖かい沖縄での開催を楽しみにしています!」、「沖縄では土曜の夕方に会議をして頂ければ、次の日は青い海を見られるわね」と声をかけられ、日々の診療や会議等、多忙な各県代表の女医理事の先生方が沖縄での癒しも期待しているのを感じました。

長崎キャリアアップ事業

さて、肝心の会議ですが、興味を引いたのが長崎県の取り組み「あじさい便り」です。大学を

中心にプロジェクトが立ち上がり、専門医習得への指導、論文を書くためのノウハウを伝授するシステムが出来つつあります。長崎は沖縄と同じく離島を多く抱えている県で、いかに長崎県内にて質の高い研修医指導ができるかを模索しています。沖縄県は幸い、県外含めて多くの初期研修医がおりますが、残念ながら後期研修医までそのまま沖縄に残って研修を続けている状況ではありません。平成 32 年～平成 34 年に始まる新専門医制度の専門医の条件は厳しく、沖縄県は、県内で専門医を習得できるシステムを早期に確立する必要性を改めて認識いたしました。

鹿児島の一病院の「女性いきいきプロジェクト」

鹿児島県の日本医師会男女共同参画委員会副会長で、県の常任理事である鹿島直子先生との懇親の中で、県医師会による院内保育園、病児保育園訪問による保育体制強化事業や、大学病院における週 4 時間からの勤務を認める多様な勤務形態を取り入れた女性医師支援事業の話をお伺いしました。また新たに、「女性いきいきプロジェクト」と題して 700 名の職員のいる鹿児島共済会南風病院の取り組みが発表されました。その病院のプロジェクト担当メンバーは、院長より指名された女医の富村奈津子先生が、院長室から出た後、「偶然廊下ですれ違った職員に声をかけ、看護師、検査技師、放射線技師、事務部、秘書等のメンバーで構成されました」というスタートのプロジェクトに場内爆笑。各職種の垣根を超え「女性が働きやすい職場づくり」の過程が淡々と語られました。「職員自体はすでに頑張っている」それでも変革と改善を追求し管理者との対話を続けていく姿勢は、多くの病院の模範になると思われました。

佐賀大学医学部学生アンケート結果

佐賀大学医学部社会医学講座の原先生による佐賀大学医学科 4 年生 93 名（男性 45 名、女性 48 名）のアンケート結果で「医師免許を持つ女性が育児のために離職することについてあなたの考えに近いものは？」という質問に対して男女とも「医師である前に一個人なのだから、いかなる人生も本人の自由だ」が 75% 強、「多くの資源を投じて要請した医師が離職すべきことは防ぐべき」20% 弱でした。また、男子学生の 5% 強に「中途半端に仕事をするよりむしろ離職するほうがよい」の回答があったことに原先生は果たしてこれでよいのだろうかと疑問を投げかけ、学生からの生涯にわたる教育、啓発の重要性を強調していました。佐賀大学医学部は半数が女子学生で、その 4 分の 3 が、アンケートのように医師の仕事を選択しなかったら、93 名中 59 名（63%）しか医師にならない！と私は携帯の計算機で試算しながら、学生からの意識改革が根本に必要であることを痛感しました。「医師のキャリアデザイン」に関して大学、県、医師会の連携、及びその継続が必要のようです。

各県の取り組みには各県の事情、地理的条件による差があり一概には言えませんが、保育所等の女性医師支援のハード面の充実を主とする県、いかに医師会、県、大学との連携を密にし、専門医等キャリアアップを目指す県と様々であり、今後各県の良い点を自分の県に取り入れたいとの先生方の意気込みを感じました。沖縄の取り組みについては「プチフォーラム」に関して質問を受け、ご興味を引いたようで、福岡県、宮崎県の先生方の質問を受けました。今後、沖縄女性医師部会では、福岡県、熊本県で発行している各病院の医師数、育児支援等のサポートに専門医習得支援も加えた「キャリアサポートブック」作りを目指したいと考えております。